

北本市文化センター大規模改修基本計画（案）に対する意見及び市の考え方

※頁数は、パブリック・コメント実施時の計画案の頁数で表しています。

No.	頁	意見の内容（要約）	市の考え方
1	19 20 21	上に行くほど部屋が暗いので、自然光を取り入れる造りにし、収容人数を増やすため部屋を広くする改修を行うほか、一部の方だけでなく、市民誰もが気軽に行け、利用できる施設にしてほしい。	P19「文化センターの基本的な方向性」の「市のシンボリックな施設」で、多くの利用者が訪れる施設とすることとしています。また、P20, 21「大規模改修の基本方針と配慮事項」の「環境・省エネルギーの配慮」で、照明設備のLED化等を実施することとしています。
2	17	北本市には、小学校低学年以下の遊び場は児童館等で確保されているが、雨の日に小学校高学年以上の子が遊ぶところがないのが難点だと考える。そのため、上尾の児童館のような体育館や大きなホールを開放し、小学生から高校生までがボールを使って遊べる場所を作って欲しい。	P17「改修の方向性」に記載しているとおり、大規模改修にあたっては、貸室の現在機能を引き継ぐことを基本としていることから、運動ができるような新たなホール等を作ることは困難ですが、現在の施設規模の中で運動ができる場を作り出せるか検討します。
3	20	デザインは市役所と揃え、図書館は広くして開架してある本を増やして欲しい。また、宅配ボックスを設置して欲しい。	P20「大規模改修の基本方針と配慮事項」の「建築仕上材・設備機器の改修・更新」で、内外装を文化活動の拠点としてふさわしいものとするとしています。図書館については、限られたスペースをできる限り有効活用し、P19「文化センターの基本的な方向性」の「長期活用と安全・安心に利用できる施設」に記載しているとおり、ユニバーサルデザインに配慮し、利用者が快適に利用できる施設とします。宅配ボックスの設置については、今後検討します。
4	17	北本の知名度アップ、社会増に向け、ホールについて、1,200 人から 1500 人収容可能なホールに改築して、有名なミュージシャン・音楽家や劇団等を招いた大規模イベントが開催できるようにして欲しい。	大規模改修は現在機能を引き継ぐことを基本としていることから、ホールの拡大は困難です。P17「改修の方向性」に記載しているとおり、現在と同じ 700 席程度を基本とします。

No.	頁	意見の内容（要約）	市の考え方
5	17	県央地区には児童館は多数あるのに対し、科学館は数が少ない状況です。そのため、文化センタープラネタリウムは貴重な施設であり、利用者の多い少ない、経費の高い安いだけで存続の判断をしないで欲しい。 利用者数が横ばいなのは人口減や少子化、娯楽の多様化も大きいですが、「内容と質」も影響しているのではないのでしょうか。文化センター屋上に設置されている大型の望遠鏡も現在はほぼ使われていませんが、かつては毎月天体観望会が開催され、公民館主催の天文講座でも使われてきました。 県内施設との比較もドーム径や座席数だけで、入場者数の比較がありません。なぜ利用率や稼働率では比較しないのでしょうか。 また、代替施設にした場合、デジタル製品は7年程度で交換が必要になるケースが多いこと等も考慮したうえで比較しない限り、「プラネタリウムは経費が掛かる」と言い切るには疑問を感じます。	プラネタリウム施設は、県内すべての市町村に設置されているものではなく貴重な施設であること、プラネタリウムの継続を希望するご意見が多いこと等を踏まえ、基本的な機能は継続することとします。 しかしながら、多様なニーズへの対応や財政負担を減らすことを目的にプラネタリウム機能は基本的に継続しつつも、更新費が高額となる光学式投影機は廃止し、1台のプロジェクターで星空を含めて全天周映像を投影できる現行機器を継続利用することを検討します。 併せてプラネタリウム運営の内容や質の更なる向上については、他施設の調査等を実施するほか、指定管理者とも協議していきます。 なお、他施設の入場者数等については、調査結果を掲載します。
6	17	プラネタリウムの代替機能（案）については以下の点で反対です。 （導入例について） 小学生未満の幼児とその親向けの施設となってしまう、小学生以上の子供や大人だけでの利用がしづらくなる可能性がある。また、超高齢社会における市民のニーズに合致しているとは言い切れない。 （財政負担について） 代替機能（案）では、短期的な経費を抑えることが可能と考えられるが、来場者数を維持するためには、継続的なコンテンツの更新、プロジェクター等の設備更新のほか、紙や筆記具等の消耗品の雑費が増加し、財政負担が軽減されない可能性がある。また、プラネタリウムの利用料金の値上げや既存設備の活用で財政負担を軽減できるのではないかな。 （利用者数について） 代替機能（案）と似たような企画を実施している例を見ると、都内では利用者が安定しているように見えるが、地方では利用者が少ないようである。そのため、北本市でも代替機能（案）のようなコンテンツを導入しても、利用者の減少が予想され、将来的に財政負担が重くなることが想定される。	

No.	頁	意見の内容（要約）	市の考え方
7		以下の通り提案します。 1. 計画を促進するため、コンセプトは何かを示す。 2. 総予算を決め年別に概算でも良いから適宜広報に於いて市民にわかりやすく発信する。 3. 全体の計画案を市民に積極的に訴求し、市民にも計画に参加してもらう。 4. 外部の力を借りる。例）街作りに経験のあるコンサルタントプランナー、企業のアドバイス 5. 教育委員会内大規模改修事業のタスクチームを設ける。メンバーは横断的で良いと思う。各部門の若手に参加してもらう。 6. 他市・町・村の良いところを参考にする。視察・アドバイス 7. 防災施設として強化。設置場所の明示・訓練強化 ＜個別改善策＞ 1. 北本特産の展示ショーケース暗くてただ置いている感じがするため、LED等で明るくして訴求力を強化する。 2. 2F・3Fのトイレを1F並みに改善する。 3. 居眠り・スマホ・おしゃべりが散見されるため、図書館の新聞・雑誌閲覧コーナーをデスクにする。 4. 屋上の強化として、緑化し市民の憩いの場とする。	1. 文化センターの基本的な方向性については、P19に記載している(1)市のシンボリックな施設、(2)長期活用と安全・安心に利用できる施設、(3)市民の文化活動の拠点となる施設の3つとしています。 2. 概算事業費は、P21に記載しているとおり30億円程度を想定しています。今後、設計等を踏まえ、年度ごとの費用等について個別施設計画を更新していきます。また、必要に応じ、広報等でお知らせしていきます。 3. 今回のパブリックコメント、公民館等運営審議会での審議を通じて市民の意見等を伺っています。 4. 民間企業である指定管理者から意見を伺っています。また、今後実施する基本設計においても検討を進めます。 5. 関係課との意見交換を実施したほか、基本計画に対する庁内での意見聴取を実施しています。 6. 他自治体の事例等も調査し、参考にしています。 7. P20「防災への備え」に記載しているとおり、安心安全な施設となるよう改修を行います。また、文化センターでは、大雪による帰宅困難者受け入れのための避難所開設等の実績もあり、日頃から災害時に対応するための訓練も行っています。 ＜個別改善策＞ 1. ショーケースの活用については、今後検討します。 2. トイレは、P20「バリアフリーへの配慮」に記載しているとおり、バリアフリー化も考慮し改修予定です。 3. 図書館機能については、基本設計の中で検討予定です。 4. 屋上の活用については、これまでも実験的にヨガ教室を企画する等、検討を進めています。引き続き屋上の活用について検討します。